

# リトアニア（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在リトアニア日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

## 1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	4	4	45	2	7	165	3	5	123	9	16	333

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

## 2.日本語教育の実施状況

### 全体的状況

#### 沿革

日本語教育は、リトアニアの独立回復後間もない1992年にビリニュス大学文学部にて選択科目として開始され、翌1993年には同大学に東洋学センターが設置され、副専攻として認められた。2000年には同センターにて日本学が主専攻となった。

一方、リトアニア第2の都市カウナスでは、1995年にビータウタス・マグヌス大学人文学部で選択科目として日本語教育が開始された。2002年9月には同センターはアジア研究センターと対象地域を拡大し、2004年に日本語主専攻第1期生5名、2006年に第2期生9人が卒業した。現在、同大学の日本語・日本学は副専攻となっている。また、2013年2月にビリニュスのミコラス・ロメリス大学にアジアセンターが開設され、初級の日本語教育が開始された（現在は休止中）。

1999～2000年、初等・中等教育機関においても自由選択科目として日本語教育が開始された。

## 背景

リトアニア国民は親日的であり、政治、文化、科学の分野で二国間関係は広がりを見せているが、両国の経済的関係は限定的なものとなっている。そのため、日本語能力を活かせる場が限られており、教育機関は入学者数を制限している。他方、日本文化（伝統文化とサブカルチャーの両方）、先端科学技術に対する関心は高く、日本語学習希望者、日本への留学希望者も毎年増え続けている。

## 特徴

- 中等教育での日本語教育は初期段階にあるが、学習者数は増加傾向にある。
- 高等教育においては、ビリニュス、カウナスの各国立大学で、選択科目、副専攻、主専攻扱いとなっているが、在籍学生数が徐々に減少しているため、履修者数も減少傾向にある。

## 最新動向

ビリニュス大学アジア多元文化研究所日本語主専攻の 58 名の学生、夜間コースでは 9 名の学生が同研究所にて日本語を学んでいる。また、日本人留学生と現地のビリニュス大学生の共同により日本文化・会話クラブ「Japon café」が運営されている。

ビータウタス・マグヌス大学では、学部用東アジア研究プログラムが 2012 年秋から導入され、現在日本語を専攻とする学生数は 27 名、日本愛好クラブ「Hashi」など課外活動でも日本語の学習が取り入れられている。リトアニア全体では、中等教育機関 10 機関、高等教育機関 2 機関、学校教育以外の教育機関 5 機関で日本語教育が行われている。

## 教育段階別の状況

### 初等教育

2011 年よりドゥルスキニンカイ・アトギニモ学校において、課外活動として約 28 名が学習している。2024 年よりカウナス・セナミエスティス・プロギムナジウムにおいて、課外活動として 2 年生から 3 年生（8～9 歳）約 15 名が学習している。

### 中等教育

1997 年より日本語教育が開始されたビリニュス・ウジュピス・ギムナジウムでは、高校生への必須科目として、週 2 回日本人教師による日本語教育が行われている。

課外活動として、ビリニュス・サロメヤ・ネリス・ギムナジウムでは JF の日本語教師研修を修了した教師による日本語教育が行われている。ビリニュス・リセウム、ビリニュス・ジェミーナ・ギムナジウムでは日本人教師による日本語教育が行われており、その他にもカウナス・ドブケヴィチュス学校、テルシャイ・ジェマイテ・ギムナジウム、アリートゥス・ヨトビンギヤイ・ギムナジウム、ドゥルスキニンカイ・リータス・ギムナジウムにおいて課外活動での日本語教育が行われている。

### 高等教育

ビリニュス大学ではこれまで日本語専攻の生徒を受け入れてきており、現在 58 名が在籍している。同大学は

日本の 29 大学と大学間交流協定を締結しており、毎年数名の学生が留学している。

ビータウタス・マグヌス大学では、27 名が日本語を専攻している。同大学は日本の 29 大学と大学間交流協定を締結しており、毎年数名の学生が留学している。

2013 年 2 月にミコラス・ロメリス大学にアジアセンターが開設されたことにもない、日本語教育が開始された。2022 年までは日本人講師によって初級・中級レベルの課外活動講座が行われていた。2024 年には別の日本人講師により、初級レベルの課外活動講座が行われた。

### 学校教育以外

ビリニュス大学では、夜間コースを設け日本語を勉強したい人を毎年受け入れており、現在 9 名が在籍している。同様にビータウタス・マグヌス大学でも 12 名が学習している。

その他には、日本語教育機関「Yukari」、「Asian culture and language house」、ビリニュス市青少年センター「Hobiverse」、語学学校「Ziniu gausa」、課外学校「Gravitas schola」、「TSURU」、「Seito san」の 7 機関が現在日本語コースを開講している。

## 3.教育制度と外国語教育

### 教育制度

#### 教育制度

4-6-2-4 制または 4-4-4-4 制（進学する学校の種類によって異なる）。義務教育は 10 年間。

- ・小学校：7～10 歳（1～4 年生）
- ・中学校：11～14 歳（5～8 年生）、11～16 歳（5～10 年生）
- ・高等学校（ハイスクール）：17～18 歳（11～12 年生）
- ・ギムナジウム：15～18 歳（9～12 年生）
- ・職業訓練学校：17 歳～（11 年生～期間はプログラムによって異なる）
- ・総合大学（university）：19～22、23、24 歳（1～4、5、6 年生 学部によって異なる）
- ・単科大学（college）：19～21、22 歳（1～3、4 年生 専攻によって異なる）

小学校で 1～4 年、中学校で 5～10 年、高等学校で 11～12 年を学習する生徒もいれば（4-6-2 制）、9～12 年をギムナジウムという人文学、科学、技術、芸術面でより専門化した教育施設で学ぶ生徒もいる（4-4-4 制）。なお、11 年生から職業訓練学校に進む生徒もいる。大学進学については、各大学による入学試験は実施されておらず、高等学校最終年に実施される全国统一試験の結果によって、進学できる学校、学部が決定される。

### 教育行政

教育・科学省が管轄。高等教育は、その下に置かれた科学・高等教育局が管轄している。

### 言語事情

公用語はリトアニア語。ソ連時代にロシア語と併用状況であったため、40 代より上の世代はロシア語を第一外国語として使用している人が多い。30 代以下は、英語を第一外国語としている。他に、ポーランド語、ドイツ語も人気がある。

## 外国語教育

一般の学校では、小学1年（7歳）から第一外国語を必修科目として学習する。英語、ドイツ語、フランス語から選択でき、生徒の50%以上が英語を選択する。授業は週に2時間。中学2年（12歳）より第二外国語として、ドイツ語、ロシア語、英語、スペイン語、フランス語などを選択できる。正規の科目としての日本語は、ビリニウス・ウジュピス・ギムナジウムにて第三外国語として学習できる。課外活動として日本人講師による日本語教育を行う学校も増加傾向にある。

大学では、小・中・高校で学習した外国語の勉強を継続するか、新しい外国語を選択することもできる。また、ビリニウス大学には孔子学院が設置され中国語教育の充実化が図られ、ミコラス・ロメリス大学とビータウタス・マグヌス大学においては韓国語の講座を提供する世宗学堂が設置されるなどアジアの国の言語を学ぶ機会が増加している。

### 外国語の中での日本語の人気

日本語は、アジアの国の言語の中では人気がある方だが、ヨーロッパ言語に比べれば学習者人口は格段に少ない。

### 大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

## 4. 学習環境

### 教材

#### 初等教育

『みんなの日本語』スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）

#### 中等教育

中等教育機関では、JF から寄贈された日本語教材を使用している。2002年『漢リ字典』が出版され、各日本語教育機関にて広く利用されている。

- 『新文化初級日本語Ⅰ』文化日本語専門学校（文化日本語専門学校）
- 『風のつばさ』アークアカデミー（凡人社）
- 『にほんごのきそ』海外技術者研修協会（スリーエーネットワーク）
- 『みんなの日本語』スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）
- 『BASIC KANJI BOOK 1』加納千恵子ほか（凡人社）
- 『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE』国際日本語普及協会（講談社 USA）

#### 高等教育

各大学の教師が使用する教科書を選択するが、教師が独自に教材を作成する場合もある。主な大学の使用教材は次の通り。高等教育機関でも、JF から寄贈された日本語教材が広く使用されている。

## ビリニクス大学

- 『みんなの日本語 初級 Ⅰ、Ⅱ 第2版』スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）
- 『みんなの日本語 中級 Ⅰ、Ⅱ』（スリーエーネットワーク）
- 『BASIC KANJI BOOK 1 2』加納千恵子ほか（凡人社）
- 『INTERMEDIATE KANJI BOOK 1 2』加納千恵子ほか（凡人社）
- 『どんな時どう使う日本語表現文型 500』友松悦子ほか（アルク）
- 『どんな時どう使う日本語表現文型辞典』友松悦子ほか（アルク）
- 『初級日本語 げんき Ⅰ、Ⅱ 第3版』（The Japan Times 出版）
- 『4技能でひろがる中級日本語カルテット』（The Japan Times 出版）
- 『にほんご漢字トレーニング』（アスク出版）
- 『日本語語彙力アップトレーニング』（アスク出版）
- 『中級日本語文法要点整理ポイント 20』（スリーエーネットワーク）
- 『短期集中 初級日本語文法総まとめ 20 ポイント』（スリーエーネットワーク）
- 『日本語総まとめ N2 文法・漢字・語彙・読解・聴解』佐々木仁子・松本紀子（アスク出版）
- 『日本語総まとめ N3 聴解』佐々木仁子・松本紀子（アスク出版）
- 『レベルアップ日本語文法』許明子・宮崎恵子（くろしお出版）
- 『日本をたどりなおす 29の方法 国際日本研究入門』野本京子・坂本恵（東京外国語大学）
- 『日本語基礎文法辞典 A Dictionary of Basic Japanese Grammar』牧野成一・筒井道雄（The Japan Times 出版）
- 『日本語文法辞典【中級編】 A Dictionary of Intermediate Japanese Grammar』牧野成一・筒井道雄（The Japan Times 出版）
- 『日本語文法辞典【上級編】 A Dictionary of Advanced Japanese Grammar』牧野成一・筒井道雄（The Japan Times 出版）
- 『日本語文型辞典 英語版 A Handbook of Japanese Grammar Patterns for Teachers and Learners』Group Jammassy（くろしお出版）
- 『古典文法 FORMULA 30』富井健二（ナガセ）
- “Classical Japanese: A Grammar” Haruo Shirane (Columbia University Press)
- “Classical Japanese Reader and Essential Dictionary” Haruo Shirane (Columbia University Press)

## ピータウタス・マグヌス大学

- 『楽しく聞こう』文化外国語専門学校（文化外国語専門学校）
- 『みんなの日本語Ⅰ、Ⅱ』（前出）
- 『初級日本語 げんき』坂野永理ほか（ジャパントイムズ）
- 『風をつばさ』（前出）
- 『まるごと』JF 日本語国際センター（三修社）
- 『いろいろ 生活の日本語』JF 日本語国際センター

## 学校教育以外

- 『初級日本語 げんき』坂野永理ほか（ジャパンタイムズ）
- 『J.Bridge to Intermediate Japanese』小山悟（凡人社）

## IT・視聴覚機材

ビリニュス大学及びビータウタス・マグヌス大学においては、日本政府の文化無償協力で供与された日本語学習機材によって、コンピューターを含むマルチメディアを活用した日本語教育が行われている。

## 5.教師

### 資格要件

#### 初等教育

小学校の教師の資格要件は、4年制大学を卒業していることである。この要件は行われれば日本語教師にも準用されている。

#### 中等教育

中・高等学校の教師の資格要件は、4年制大学を卒業していることであり、日本語教師にも準用されている。

#### 高等教育

一般的にリトアニアでは修士号以上の学位が必要とされているが、日本語のネイティブスピーカーが少ないため、日本語教師に関しては例外的に修士号が絶対必要とはされていない。

#### 学校教育以外

特に明確な資格要件はない。

### 日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成機関は、現在のところ設立されておらず、専門的な養成プログラムはない。

### 日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

リトアニアでは在留邦人が少ないため、日本語のネイティブであれば、資格要件は問われない傾向がある。現在、在留邦人5名が非常勤として数か所で教えている。

### 教師研修

一般の教師に対しては、5年ごとにリトアニア国立教育資質上達センターにて資質上達のコースを履修することが義務づけられている。コースを修了すると、新しい教師資格が与えられる。教師資格は一般の「教師」、「主任教師」、「教師メソヂスト」、「教育専門家」の4段階の教師資格に分類されている。

JF の海外日本語教師研修を除けば、特に現職の日本語教師対象の研修はない。

## 6. 教師会

全国で日本語教師は 20 名程度であり、教師会は存在しない。但し、教師間（個人ベース）で情報交換などが行われている。

## 7. 日本語教師派遣情報

### 国際交流基金からの派遣

### 国際協力機構（JICA）からの派遣

JF、JICA からの派遣は行われていない。

### その他からの派遣

（情報なし）

## 8. シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

## 9. 評価・試験

日本語学習者の到達度を測るための共通の評価基準や試験はない。日本語能力試験もあまり知られておらず、国内では実施されていない。

## 10. 日本語教育略史

1992 年	ビリニュス大学文学部にて日本語教育（選択科目）開始
1993 年	ビリニュス大学東洋学センター設置、日本語（副専攻）開始
1995 年	ビータウタス・マグヌス大学人文学部にて日本語（選択科目）開始
1999-2000 年	初等・中等教育機関日本語教育（自由選択科目）開始
2000 年	ビリニュス大学東洋学センターがアジア研究センターとして対象地域を拡大し、日本学が主専攻となる

2012 年	ビータウタス・マグヌス大学が学部用東アジア研究プログラムを導入
2013 年	ミコラス・ロメリス大学アジアセンターで日本語教育開始
2018 年	ビリニュス大学東洋学センターがアジア多元文化研究所に改組

## 情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。  
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

**Eメール：kunibetsu@jpf.go.jp**

(メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください)